

Natural Gas Group  
天然ガスグループ



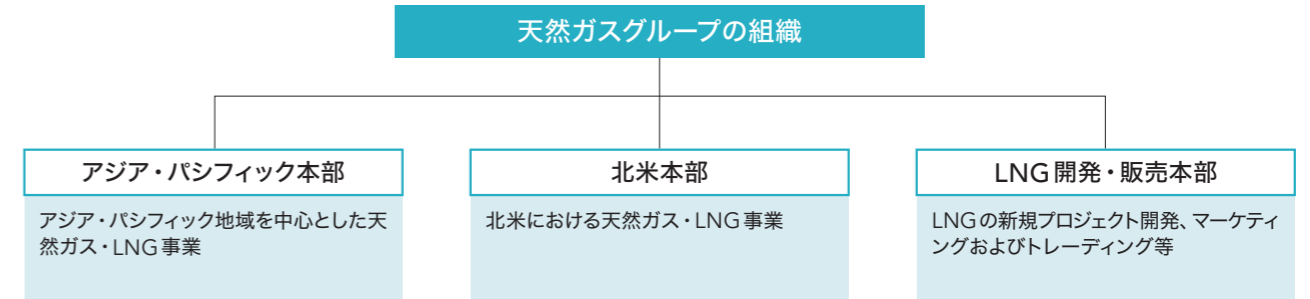
Our Vision



常務執行役員  
天然ガスグループCEO

西澤 淳

カーボンニュートラル社会への移行期において天然ガス・LNGは、再生可能エネルギーの間欠性補完、電化が困難なセクターのエネルギー源などとして重要な役割を担っています。当グループはLNGサプライチェーンの低・脱炭素化と安定供給を果たすことで、カーボンニュートラル社会の実現と持続可能な経済発展の両立に貢献します。



マテリアリティ

関連するマテリアリティ



脱炭素社会への貢献



持続可能で安定的な社会と暮らしの実現



地域課題の解決とコミュニティとの共生

事業とマテリアリティとの関連性

人口増、経済発展などにより、世界のエネルギー需要は増加が見込まれています。今後、電力分野では再生可能エネルギーへの切り替えが進展することが想定される一方で、間欠性や立地条件などの観点から全ての電力を再生可能エネルギーで賄うためには、技術の飛躍的革新が不可欠です。加えて、現在化石燃料が直接使用されている工場の熱源や移動体燃料などは、今後一定程度の電化が進展すると想定されるものの、全てを電気で代替することはできないと見込まれています。従って、増大する世界のエネルギー需要を満たすと同時に、カーボンニュートラル社会を実現するためには、化石燃料の低・脱炭素化が不可欠です。

当グループは、化石燃料の中で相対的に環境負荷の低い天然ガス・LNGの安定供給責任を果たしていくとともに、オペレーションの効率化、CCUSなどにより、天然ガスバリューチェーン全体のGHG排出量の削減にも取り組んでいきます。

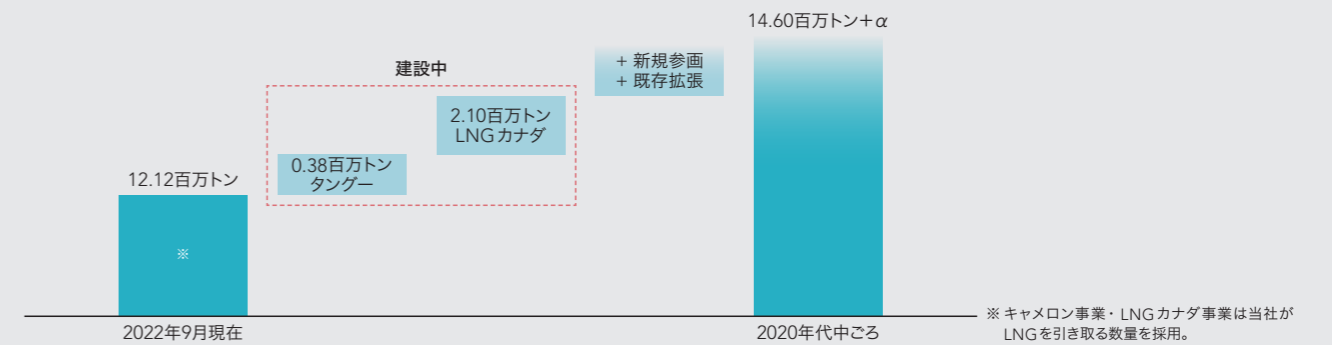
また、世界ではエネルギー源を薪・炭・石炭・牛糞などに依存している地域があり、その結果、室内空気汚染に起因する死者数は年間数百万人へのぼります。当グループは、新興国へのガス販売を通じ、このような社会課題解決にも取り組みます。

※ CCUS: Carbon Capture, Utilization and Storage の略。CO<sub>2</sub>の回収・有効利用・貯留、の意。

主要な成長ドライバー

当社は、1960年代よりLNG事業に取り組み、資本参画するLNGプロジェクトを増やしてきました。現在は全世界8カ国で12のプロジェクトに資本参画し、LNG持分生産能力は12.12百万トンに達しています。建設中のタンゲー LNG 拡張・LNG カナダは、それぞれ2023年・2020年代中ごろの生産開始を見込んでおり、2020年代中ごろにはLNG持分生産能力は14.60百万トンに達する見込みです。今後も、競争力ある新規プロジェクトへの参画を通じてLNG持分生産能力の拡大を図ります。

LNG持分生産能力の成長見通し



グループの強み・戦略

**グループの強み**

- 本邦最大のLNG事業者(持分生産量ベース)としての市場プレゼンス
- 世界中で展開するLNG事業者からの供給力、およびシンガポールの販売子会社を中心とした販売力
- カーボンニュートラル社会への移行に向けたLNGバリューチェーンの低炭素化、天然ガス・LNG由来の次世代エネルギー、CCUSなどへの取り組み

**中期経営戦略2021総括**

既存事業においては、不断のコスト削減等による収益基盤の強化を進め、建設中案件については、キャメロンLNGが生産を開始し、タンゲーLNG拡張・LNGカナダが生産開始に向けて建設が進行しました。並行して、カーボンニュートラル社会への移行に向けて、次世代エネルギーやCCUS、カーボンプレジットへの取り組みを開始しました。

**中期経営戦略2024における戦略**

既存事業のさらなる基盤強化やタンゲーLNG拡張・LNGカナダの着実な立ち上げに向けた建設の進行に加え、競争力ある新規プロジェクトへの参画を通じてLNG供給ポートフォリオの強化を図るとともに、最適化機能を通じてLNG販売力を強化し、LNG事業の強靱化を行います。また、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、既存事業におけるGHG排出量削減やCCUS、カーボンプレジット事業などの取り組みも推進します。

**今後の成長見通し**

人口増・経済成長に伴うエネルギー需要増などを背景に、相対的に環境負荷の低い天然ガス・LNGの需要が拡大しています。当グループは既存資産の拡張を含めた競争力あるLNG供給ポートフォリオを構築、LNG販売力の強化を通じたLNG持分生産能力の維持・拡大を目指します。また、LNGサプライチェーンの低・脱炭素化を推進することで、安定供給と持続可能な経済発展の両立に貢献します。

ビジネスモデルの事例

インドネシア タンゲー LNG 拡張プロジェクト CCUS 事業

当社はオペレーターであるBP社と推進するタンゲー LNG プロジェクトにおいて、同プロジェクト参画企業と共にCCUS事業を推進しています。本事業は、生産中ガス田へのCCUS適用により、プロジェクトから排出されるCO<sub>2</sub>を累計約2,500万トン回収し、既存ガス田に圧入・貯留することで、プロジェクト排出量を約半減させるとともに、天然ガスの生産効率向上・増産を行うものです。本開発計画は2021年にインドネシア石油ガス上流事業監督執行機関の承認を得ており、2022年半ば以降に開始する基本設計および最終投資決定を前提として、2026年から天然ガスの生産とCCUS事業を開始する予定です。



案件地図



液化プラント既存第2系列および建設工事の拡張系列、LNGタンク、棧橋等